

AUTOMATIC PROCESSING SYSTEM FOR CORRECTING LANGUAGE

Patent Number: JP2294736
Publication date: 1990-12-05
Inventor(s): OTAKI KIYOSHI
Applicant(s):: NEC CORP
Requested Patent: ☐ JP2294736
Application Number: JP19890115865 19890509
Priority Number(s):
IPC Classification: G06F9/45
EC Classification:
Equivalents:

Abstract

PURPOSE: To reduce the man-hour of correction by outputting a source program automatically corrected by a language processing system to a file when a slight grammatical fail is detected in an inputted source program.

CONSTITUTION: A corrected source program output means 103 consists of a means for executing processing 201 for practically correcting a source program based upon a corrected information file 106 and an inputted source program file 204 and processing 202 for outputting the corrected source program to a corrected source program file 205. When the source program generates a slight grammatical fail, the source program file is corrected by using a source program file 105 and the corrected information file 106 obtained by an error detection processing means 102, and a corrected source program file 107 is outputted by a corrected source program output means 103. Consequently, the complexity of correcting operation can be removed.

Data supplied from the **esp@cenet** database - I2

⑤ 日本国特許庁(JP)

⑩ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A) 平2-294736

⑨ Int. Cl.³

識別記号

庁内整理番号

④ 公開 平成2年(1990)12月5日

G 06 F 9/45
// G 06 F 11/28

E

7343-5B
8724-5B

G 06 F 9/44

3 2 2 C

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全3頁)

⑬ 発明の名称 自動修正言語処理方式

⑮ 特 願 平1-115865

⑯ 出 願 平1(1989)5月9日

⑭ 発 明 者 大 瀧 浩 東京都港区芝5丁目33番1号 日本電気株式会社内
 ⑰ 出 願 人 日本電気株式会社 東京都港区芝5丁目7番1号
 ⑱ 代 理 人 弁理士 井ノ口 啓

明 細 書

1. 発明の名称

自動修正言語処理方式

2. 特許請求の範囲

入力されるソースプログラムに軽い程度の文法違反があったときに処理を中断せず、前記ソースプログラムを修正あるいは補正して目的プログラムを生成するための言語処理手段と、前記文法に合致させるように修正されたソースプログラムを生成して出力するための修正ソースプログラム出力手段とを具備して構成したことを特徴とする自動修正言語処理方式。

3. 発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本発明は言語処理系のソースプログラム不正処理に関し、特にソースプログラムの文法違反の修正に関する。

(従来の技術)

従来、この種の言語処理プログラムでは入力

されたソースプログラムに軽い程度の文法違反がある場合、自動的にソースプログラムを修正し、目的プログラムを生成して利用者向けに警告メッセージを出力するといったソースプログラム修正処理のみを実行していた。よって、修正されたソースプログラムを出力するといった処理は実行されていなかった。

(発明が解決しようとする課題)

上述した従来の言語処理プログラムのソースプログラム修正方式では、ソースプログラムが軽い程度の文法違反している場合、その箇所を修正、または補正し、それ以後の処理を実行させて目的プログラムを生成しており、修正した箇所の警告は出力しているが、修正されたソースプログラムをファイルとして出力はしていなかったため、利用者は警告メッセージを見てソースプログラムを修正しなくてはならないという欠点がある。

本発明の目的は、入力されたソーステキストが軽い文法違反をしているときに、違反した箇

特開平2-294736(2)

所を修正する情報から実際に入力されたソーステキストを修正し、ファイルとして修正ソースプログラムを出力することにより上記欠点を除去し、処理操作上、わずらわしさがないように構成した自動修正言語処理方式を提供することにある。

(課題を解決するための手段)

本発明による自動修正言語処理方式は言語処理手段と、修正ソースプログラム出力手段とを具備して構成したものである。

言語処理手段は、入力されるソースプログラムに軽い程度の文法違反があったときに問題を中所せず、ソースプログラムを修正あるいは補正して目的プログラムを生成するためのものである。

修正ソースプログラム出力手段は、文法に合致させるように修正されたソースプログラムを生成して出力するためのものである。

(実施例)

次に、本発明について図面を参照して説明す

る。図1は、本発明による自動修正言語処理方式の一実施例を示すブロック図である。図1において、101はソースプログラム入力処理手段、102はエラー検出処理手段、103は修正ソースプログラム出力手段、104は終了処理手段、5はソースプログラムファイル、106は修正情報ファイル、107は修正ソースプログラムファイル、108は目的プログラムファイルである。

る。

第1図を参照すると本発明の一実施例は、ソースプログラムのファイル105とエラー検出処理手段102で得られる修正情報のファイル106とを用いて、ソースプログラムファイルを修正、あるいは補正し、修正ソースプログラムファイル107を修正ソースプログラム出力手段103により出力するものである。

第2図は修正ソースプログラム出力手段103の動作例を示す説明図である。第2図において、修正ソースプログラム出力手段103は情報フ

ィル106と、入力されたソースプログラムのファイル204とからソースプログラムに実際に修正をかける処理201と、修正されたソースプログラムをファイル205に出力する処理202とを実行する手段から成立している。

実際に、文法に違反しているソースプログラム204を入力すると仮定する。例えば、110行目の行末にセミコロンの(;)が付けられているものとする。修正ソースプログラム出力手段103は110行目の行末にセミコロンを追加して修正ソースプログラム207を出力する。

(発明の効果)

以上説明したように本発明は、入力されるソースプログラムに軽い文法違反がある場合、言語処理系によって自動的に修正されたソースプログラムをファイルに出力することにより、警告メッセージを見て、再度、ソースプログラムを修正する必要がなく、軽い文法違反の場合には言語処理プログラムにより自動的にプログラムが修正されるため、修正の工数を減少させる

ことができるという効果がある。

4.図面の簡単な説明

図1図は、本発明による自動修正言語処理方式の一実施例を示す全体構成図である。

図2図は、本発明の修正ソースプログラム出力手段の一実施例を示す説明図である。

101…ソースプログラム入力処理手段
102…エラー検出処理手段
103…修正ソースプログラム出力手段
104…終了処理手段
5…ソースプログラムファイル
105～108, 204, 205…ファイル
201, 202…処理ステップ
206, 207…プログラム例

特許出願人 日本電気株式会社

代理人 弁理士 井ノ口 啓

特開平2-294736 (3)

図 1

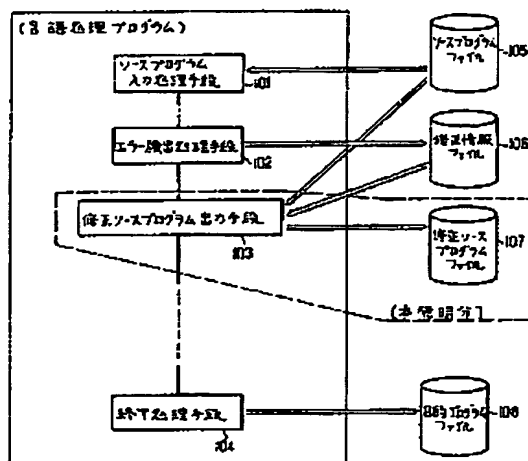


図 2

